

| | |
|-------|--|
| 研究テーマ | <p>[I 造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと]</p> <p>多様な表現方法・技法を取り入れた学習活動を通して、自分なりのイメージをもつ力を育成する図画工作科学習指導の在り方</p> <p>— 小学4年生「すてきなペーパーショップ」の実践を通して —</p> |
|-------|--|

小美玉市立堅倉小学校 教諭 春田 祥子

1 研究テーマについて

グループテーマ『造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと』の中の『自分らしさ』という言葉に着目した。まず、何をもって『自分らしい』表現とするかである。例えば、我々が美術館に足を運んで作品を鑑賞したとする。「これは〇〇さんの作品だろう。」「〇〇さんらしい作品だな。」と感じるとき、その前提として我々がそのアーティストの作品を数多く鑑賞し、その特徴をよく捉えている場合が多い。あるいは、数少ない作品しか鑑賞していなくても強烈な個性をはなっていれば、鮮明な印象とともに記憶に残っているであろう。いずれにせよ『その人らしい』と認識するには、それなりの作品数から受け取るアーティストの傾向を掴むこと、あるいは他とは一線を画くような個性が見られることが必要であると考えた。

次に、その作品をつくったアーティスト側の立場にたって考えてみよう。多少なりとも美術を志した者なら、誰しも『自分らしさ』を表現することの難しさを感じたことがあるのではないだろうか。自分がこれまで学んだあらゆることを生かし、試行錯誤を重ね、数多くの作品をつくっていく中から『自分らしさ』を定義づけていく。現代アートにいたっては『自分らしさ』を発掘・発揮するために、新しい手法が次から次へと生み出されているような気がする。こう考えると、児童が本当の意味での『自分らしさ』を見つけることは、そう簡単なことではないことが分かる。児童にとっての『自分らしさ』とはどちらかという、その子の『お気に入り』の表現、つつい繰り返して使いたくなくなる表現（表現技法）といったものに近いのかもしれない。

以上のようなことから、児童が自分らしさを発見・発揮できるように、まずは様々な表現方法・技能を身に付けることが必要であると考えた。その後、身に付けた技能を活用できる学習過程を設けることによって、グループテーマ『自分らしい表現を生み出す』に迫ることができるのではないかと考えた。これらを満たす題材として「すてきなペーパーショップ」を設定した。

2 実践例

(1) 題材名 すてきなペーパーショップ (第4学年)

(2) 目標

- 模様づくりや友だちとの紙の交換などを楽しみ、絵に表そうとしている。(関心・意欲・態度)
- 模様づくりの材料や技法から試したいことを思いついたり、できた模様から表したい絵を発想したりすることができる。(発想や構想の能力)
- 自分のイメージにあった紙を作ろうと、材料や技法の使い方を試すことができる。(創造的な技能)
- 自分や友だちの作品から、よさや美しさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

(3) 学習にあたって

① 児童の実態(男 16名, 女 16名, 計 32名)

本題材で取り上げる表現技法は以下の通りである。それらを体験したことのある児童が、どのくらいいるかアンケートをとった。

< 次の表現技法を体験したことがありますか >

| 表現技法名 | 技法の説明 | 人数 |
|---------|-----------------------------------|-----|
| スタンプング | いろいろな物を版にして写す。 | 32人 |
| スクラッチ | クレヨンで下塗りをして、その上に黒をぬり重ね、釘などでひっかく。 | 11人 |
| バチック | クレヨンで下塗りをした上に水彩絵の具をぬり重ねる。 | 7人 |
| ドリッピング | 紙に絵の具をたらし、ストローでそれらを強く吹いて移動させる。 | 6人 |
| フロッタージュ | 凹凸のある物の上に柔らかい紙をおいて写し取る。 | 4人 |
| マーブリング | マーブリング液を水の上にたらし、水面にできた模様を紙に写し取る。 | 0人 |
| デカルコマニー | 紙の上に何色かの絵の具を出し、上にもう一枚の紙を重ねてこする。 | 0人 |
| スパッタリング | 絵の具をつけたブラシを金網の上でこすりつけ、霧のように吹き付ける。 | 0人 |

技法名が難しいこともあり、技法名だけでは子どもたちに伝わらないと考え、実際に目の前でそれらの技法をやってみせながら、確認していった。スタンプングは低学年の題材で取り扱っているため、全員の児童がその技法を体験していた。また、スクラッチやバチック、ドリッピングにおいては、幼稚園などで体験している児童がいた。しかし、マーブリング・デカルコマニー・スパッタリング・デカルコマニーに関しては体験のある児童がいなかった。このように表現技法についての知識や体験が極端に少ないことがわかった。なお、学習指導要領によると、クレヨンは1・2年、水彩絵の具は3・4年において取り扱うことと明記されている。

② 題材について

本題材では、ペーパーショップと銘打って、様々な模様や多彩な着色を施した紙をつくっていく。自分のお気に入り（イメージ通りの）紙をつくるために、その基礎的な能力となる多様な表現技法を一通り体験する時間を設ける。その後は、それぞれが思い思いに試行錯誤しながら、自分が気に入った技法でどんどん表現していく。さらに、できあがった紙を友だちと交換し合い、それらを用いて切り貼り（コラージュ）する。多様な表現方法・技能を身に付けることができるため、自己選択の幅が広がり、自分のイメージをより具体的に表現することのできる題材である。

③ テーマに迫るための手立て

- はじめにきれいな紙や模様をつくり、それを使ったコラージュを楽しむ活動を提案し、どんな紙ができそうか、これまでの経験や具体物から意見を出し合う場面を設定する。
- 児童にとって経験のない、新しい技法については積極的に提案し、どの児童もそれらを一通り体験できるようにする。
- スポンジローラーや刷毛などの用具やマーブリング用の絵の具などを使用する際には、スムーズに活動できるような場を設定する。
- ペーパーショップを開店させ、自分や友だちの紙のよさや美しさを感じ取りながら交換できる楽しい場面を設定する。その際に、自分のお気に入りの紙・人気の紙・注目した紙など、その理由を児童に考えさせたり、発言させたりすることを通して、形や色のよさや美しさに気づかせ、自分のイメージをより具体化できるようにする。
- 友だちとの交換によって集まった紙の模様や色から発想した絵をコラージュで表していくことを通して、友だちがつくった紙のよさや美しさも感じ取りながら、自分のイメージにあった作品を作れるようにする。

(4) 指導と評価の計画（6時間取扱い）

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | | 評価規準 |
|------|---|-------|----|---|---|--|
| | | 関 | 発構 | 技 | 鑑 | |
| 10分 | ○すてきな模様の紙をつくる方法を考え、活動の見通しをもつ。 | ○ | | | | ・模様づくりの材料や技法から試したいことを思いつく。 ・自分のお気に入りの表現を生み出そうと、材料や技法の使い方を試している。 |
| 120分 | ○これまでの経験を生かし、新たな方法や材料の使い方を試行錯誤しながら、いろいろな模様の紙をつくる。 | | ○ | ○ | | |
| 20分 | ○友だちと紙を交換するペーパーショップを開店させて紙の交換を楽しみながら、多様な表現のよさや美しさを感じ取る。 | ○ | | | ○ | ・模様づくりや友だちとの紙の交換などを楽しんでいる。 ・様々な材料や技法からできた紙から、自分のイメージにあった絵を発想して、絵に表している。 |
| 100分 | ○手元に集まった紙の模様や色から発想してコラージュを楽しむ。 | | ○ | ○ | | |
| 20分 | ○自分の活動を振り返り、互いの作品を鑑賞する。 | | | | ○ | ・自分や友だちの作品から、よさや美しさを感じ取ろうとしている。 |

(5) 本時の授業

① 目標

多様な技法を体験する活動を通して、自分のイメージにあった紙をつくることができる。

② 準備・資料

児童：版で表したいもの、スポンジ、段ボール、クレヨン、水彩絵の具、新聞紙、
教師：画用紙などの紙、参考作品、ストロー、マーブリング用絵の具
スパッタリング用の金網・ブラシ、釘など

③ 展開

| 学習活動・内容 | ○教師の支援 ◎評価 |
|---|---|
| <p>1 本時の課題を確認する。</p> <div data-bbox="156 600 699 698" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>様々な方法で、すてきなもよりの紙をつくらう。</p></div> <p>○ どんな材料で、どんな模様の紙が作れそうか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ スポンジに絵の具をつけてスタンプ・ 段ボールを小さく切って丸めてスタンプ・ クレヨンでかいて、上から絵の具でぬる。 | <p>○ 接着剤やのりを使用するため、机の上に新聞紙をしいておく。</p> <p>○ これまでの経験を思い起こさせたり、実際に具体物を見たりしながら、意見を出し合えるようにする。</p> <p>○ 児童の知らない技法については教師が意図的に紹介する。</p> |
| <p>2 多様な技法を試しながら、様々な模様の紙をつくる。</p> <p>○ スポンジや段ボール、ネット等でスタンプ</p>  | |
| <p>○ ストローでドリッピング（吹き流し）</p>  |  |

- その他（デカルコマニー・マーブリング・スクラッチ・フロッタージュ・スパッタリングなど）



3 本時の製作を振り返り、次時への意欲と見通しをもつ。

- ・ できあがった様々な模様を互いに鑑賞する。
- ・ 後片付けをする。

- 児童が安心して積極的に試行錯誤できるように、用紙は多めに準備しておく。
- マーブリング用の絵の具、スパッタリング式などを利用できる場を設定しておく。
- ペーパーショップを開いて友だちと交換するため、たくさん多様な紙をつくるように話す。
- 新たな発想や方法で試してみるよう助言する。
- 試行錯誤する中から生まれた紙は、一見失敗のように見えるものもあるが、使える部分をコラージュしていくため無駄にはならないことを話す。

創造的な技能

- A 自分のイメージにあった模様の形や色に着目しながら、材料や技法を工夫してつくっている。
(観察・作品)
- B 自分のイメージにあった材料や技法に着目してつくっている。
(観察・作品)

- それぞれの作品のよさを認め、次時への意欲につなげる。

7 成果と課題

- はじめにきれいな紙や模様をつくるためにどんな材料が必要か、それらでどんな模様ができそうか、意見を出し合う場面を設定したことによって、こんな方法でやってみたいという具体的なイメージをもつことができた。実際の活動に移ったとき、何をしたらいいか悩んでいる児童がいなかった。このことから、発想や構想の能力（形や色、イメージなどを基に想像をふくらませたり、表したいことを考える力）が高まったと考えられる。
- 児童にとって経験のない、新しい技法については積極的に提案したことにより、新しい技法にも意欲的に取り組み、作品づくりにもそれらの紙を使用するなど、自分のイメージを具体的に表現する力（創造的な技能）が高まった。
- 新しい技法を繰り返し試みることを通して、次第に繰り返し使いたくなる表現方法が限定されてくる傾向が見られ、より自分のイメージを鮮明にすることができた。
- ▼ ワークシートを作成し、言葉による表現（言語活動）を意図的に取り入れた方がよかった。例えば、友達の作品の中に、自分がつくった紙が使用されていたときの気持ちをワークシートに記入させるなどである。また、これらを鑑賞の際に発表することによって、より互いの表現方法の違いや感じ方のよさを認め合えることができたと思われる。

<資料 実際の活動の様子>

① ペーパーショップ開店！ 友だちと交換しよう！

自分や友だちの紙のよさや美しさを感じ取りながら交換できる楽しい場面を設定



② 手元に集まった紙を使ってコラージュしよう！

手元に集まった紙の模様や色から発想した絵をコラージュで表していく。

友だちがつくった紙のよさや美しさも感じ取りながら、自分のイメージにあった作品を作る。



